

## 「英語日誌」のすすめ

山口 豊

### 1. はじめに

これはべつに自分で考案して始めたものでも何でもないので、偉そうに文章にしてまとめるのも気がひけないでもないが、ある研究会でこの「英語日誌」を紹介したところ、参加していた先生方に思いのほか評判だったので、こういう場をかりてもっと多くの人たちに見てもらう価値があるのではないだろうか、勘違いかも知れないが思ったのである。「そんなもの知っているよ」という人は、べつに読んでくれなくてもよい。

この英語日誌は、赴任してすぐ2学年担当になった私に、同じ2学年担当の先生たちが、その前の年にもやっていたので今年もやりましよう、私も何がなんだかわからないが、やりましようとしたものだ。これは私の勤務する釜石南高等学校の英語科全体でやっているというわけではなく、この学年だけでやっているものだ。だれが考案したのか特定はできないと思うが（なぜなら他のどこかにもありそうであるから）、私と入れ替わりに転勤した先生がどうやらやり始めたようである。さてこの「英語日誌」を私はとても大事にしているのだが、これがいいたい何なのかを説明する前に、私が勤務する学校について少し紹介しておこう。

### 2. 勤務校について

私が勤務する岩手県立釜石南高等学校は、いわゆる進学校であり、入学してくる生徒全員が大学に入学するための勉強をするためにここに入学してくる（というのが前提らしい）。昨年度（平成11年度）の4年制大学への進学率は約7割で、そのうち約6割が国公立の大学へ進学した。釜石地域を代表する進学校としての役割を担い、地域の中学校から大学進学を目標とする生徒が多く集まる。本校では、国公立を中心とした4年制大学へ生徒を進学させるための、教科指導や、進路指導、また平常課外や長期休暇中の課外など、進学校としての態勢をととのえている。地域からの期待も当然大きい。

だが実際は、沿線（盛岡市など）の高校にくらべ、地域を代表する進学校とは言っても、入学してくる生徒たちの間の学力差は大きい。そのため英語は（現在は英語IIに限られているが）、2学年と3学年では習熟度別にクラスを編成して指導している。

私の担当する2学年は普通科文系4クラス、普通科理系2クラス、理数科1ク

ラスで、生徒数281名である。そのうち私は文系と理系の英語Ⅱ習熟度別で下のレベルのクラスをそれぞれ一つずつと、習熟度別ではないHR別のライティングのクラスを2つ担当している。他に3学年、私立文系コースのオーラルコミュニケーションBも担当している。

さらに、釜石南高校の特色として述べておきたいのだが、授業は1授業時間を65分で行っており、それぞれの教科で内容の充実した授業ができるようにカリキュラムが組まれている。平日の授業時間は5校時まで、土曜日は3校時までであり、普通に1校時50分で授業を行った場合よりも、週に2時間ほど多く授業ができる（つまり得をする）ということである。この1校時65分制は、過去に県内の他の学校でも行われていたことがあるそうだが、現在では釜石南高校だけであるということであるので、本校の大きな特色の一つと言えよう。

さて、65分という長いような感じがするが、先生たちも生徒たちも慣れてしまっていて、特にこれが長すぎるといふうには感じていないようである。ただ私としては、英語の授業に関しては、1校時を長く、内容も充実させるよりも、短い授業時間で週に行える回数を増やした方が良いように思える。1校時時間の長さに関しては、学校内でも議論があり、学校週5日制の導入におけるカリキュラム作りの上で、50分に戻した方が良いのではという意見がある。平成14年度からそのようになる可能性が大きい。

### 3. 「英語日誌」とは

「英語日誌」とは毎時間の英語の授業の記録である。その記録をするのは教師ではなく生徒である。英語日誌はたいていの学校にある学級日誌と同じようなものである。英語日誌は授業の始めに、担当の（持ち回り制）一人の生徒に渡される。私の場合、授業の開始時（号令の後）に、前の時間に英語日誌を書いた生徒に渡し、コメントを読んだら次の生徒に渡すよう指示する。できるだけクラスルーム・イングリッシュを増やそうと心がけているので、この指示もいつも英語で行う。だいたい次のようにである：

"Thank you for your English journal.

Read my comment and pass it to the next person."

私が "Good morning." "Good afternoon." などのあいさつに続いていつも教室で行うのがこれであり、一つの日常儀式のようになっている。そしてその後、その都度の授業に入る。

生徒は授業後（授業中に書く生徒もいるが）に英語日誌を書き、担当の教師に持ってくる。なるべくその日のうちに持ってこさせるようにしているが、その授業が一日の最後の時間だったりする時は、次の日の朝でも良いことにしている。書いてくる内容はあらかじめ決められていて、その見本を英語日誌の見開きページに張り付けており、生徒がそれにそって書いてくる。その内容は次の通りである。

- ・授業日、校時
- ・単元名、ページ、記録者名
- ・授業のポイント
- ・宿題
- ・余談
- ・感想、要望

そして最後に、内容はなんでも良いのだが、本人の抱負、反省、様子などについて英文で2文以上の作文をすることになっている。そして教師は日誌に検印をし、生徒の感想・要望、または英作文に対するコメントなどを書く。生徒の書いた英文には必要に応じて添削を加えている。訂正する間違いは、大きなもの（グローバル・エラー）だけにし、文法的に正しく意味が通じていればそのままにしている。基本的に、何でも好きなことを、「積極的にコミュニケーションをはかる態度を育てる」ということを趣旨にして、「英語日誌」の中で生徒に英作文をさせている。

#### 4. その取り組みについて

##### 4. 1 授業記録簿として

さてこの英語日誌は、始めた頃はよく意味も分からずやっていたのだが、しいにいろいろな意味で、自分にとっても重要なものになってきた。授業の進度や、何を宿題に出したか記録されているので、教師にとっては非常に便利な授業記録簿の役割を果たす。これを見れば、前の時間にどこまでやったかわからなくなり、生徒に聞いたりすることはない。教室に行く前の授業の準備にも大変役立つ。前の時間に何をポイントとして生徒に提示したかが記録されているので、授業の中での確認や小テストなどの用意にも役立つ。

#### 4. 2 生徒とのコミュニケーション手段として

授業中にする余談なども生徒がよく聞いているようで、後で自分で見てみるとおもしろい。また余談はあまりあらかじめ用意しておくものでもないので、「余談なし」と書かれる場合も多い。余談をしたつもりなのに「余談なし」と書かれることも時にはある。そういう時は、この生徒は授業中「ボー」としていたのだろうか、または私の余談が印象に残るほどのものでもなかったのだなと考える。「余談」のところに生徒からの余談を書いてくることもある。授業に関係のないことで、個人的に私に知らせたいことや、クラスのことについてなど書いてくることがある。

授業への感想については、残念ながらあまり批判的なことを書いてくる生徒は少ないが、自分でその都度の授業を反省するのに重要な題材となる。楽しい授業をすればそう書いてくるし、わかりやすい授業をすればそう書いてくる。夏の蒸し暑い頃は、生徒も授業に集中できなかつたと書いてくる。二日酔いで授業をすれば、生徒も様子が変わたと気づく。「先生の目が変わった」と書かれたことがあった。英語の勉強に関しても、「難しい」とか、「好きでない」とか、とにかく素直な感想をいろいろと書いてくる。

また要望なども、どうすれば英語ができるようになるか教えてくれとか、どういふことを授業でやってほしいとか、いろいろと書いてくる。私は時々、教室にギターを持って行って英語の歌を教えたり、みんなで歌ったりしているのだが、それをもっとやってくれなどと、なんでも好きなことを書いてくる。英語の授業に関係のない要望などもいろいろ出してきて（私が8年以上もはやしているひげをそってくれとか）、そのつど全部というわけにはいかないが、できるだけ生徒たちの出してくる要望にはこたえるようにしている。例えば英語の学習法とか、全員の生徒に共通するような問題については、授業の開始時などに時間をさいて話したりしている。

#### 4. 3 英作文指導に関して

生徒が「英語日誌」の最後に書く英作文に関しては、私にとって、彼らがどのような間違いをしやすいか、英語のどの部分がわかっていないかを知る、一つの材料となっている。このように英語で作文をさせる機会を生徒に与えるのは良いことである。できれば全員の生徒に毎回の授業日誌を書かせた方が良いのかもしれない。だがそれは普通の授業で補うものとする。「英語日誌」は一つのクラスに一つでよい。生徒全員に書かせたりしたら教師が大変である。

ただ、この1年間の「英語日誌」の取り組みを振り返って、一つ反省をしなけ

ればならないことがある。それはこの「英語日誌」の中の、英作文などによる英語での生徒とのコミュニケーションを徹底できなかったことである。クラスによっては、しだいに英作文をしなくなったクラスもあり、結局最後まで英作文を続けたクラスは、4クラスのうちたったの1クラスだけであった。生徒は「英語日誌」を書く時に、たいいてい前の人の日誌を参考にするので、英作文をしない生徒がいた時はその都度注意すべきであったと反省している。また、私の英語でのコメントも、生徒から「英語がわからないから日本語をお願いします」との要望があったりして、しだいに日本語で書くことが多くなったことも反省している。コミュニケーションをとるという意味では、日本語の方が楽であり、便利であるのだが、それでは「英語日誌」の意義が薄くなる。この「英語日誌」を単なる授業記録ではなく、英語でのコミュニケーションの場にもするために、来年度からは、生徒に英語で書くことを徹底させ、それに英語でこたえることを自分で徹底したい。

## 5. 最後に

この「英語日誌」は私にとって非常に大切なものである。教室に持って行くのを忘れてしまうと、わざわざ職員室に取りに戻る。「英語日誌」は、私と生徒との間の重要なコミュニケーションの手段のひとつである。自分で発明したものでも何でもないので、偉そうなことは言わない。私としては、素晴らしいものを教えてもらって良かったと、とても喜んでいる。今、約一年間の授業を、この「英語日誌」をながめながら振り返ってみて、あらためてこの「英語日誌」のありがたさを実感している。これは私の「英語教育史」である。私は教師をやっている間はずっとこの「英語日誌」を続けているだろう。何年もした後で、1年目の「英語日誌」を見直して喜んでいる自分の姿が想像できる。

なお、この「英語日誌」は何も教科が英語でなければできないというものではないということを言っておきたい。同じような形式で他の教科でも使える。「数学日誌」でも「国語日誌」でもありうる。これは一つの授業記録のあり方であり、生徒とのコミュニケーションの方法である。また、これはどのような授業にでも適用できる。私自身がどれくらいこの「英語日誌」に助けられ、また時に生徒たちの声に励まされてきたかを考えると、この「英語日誌」の存在なしに、教壇に立ち授業をしていくことは考えられない。私は自分自身日記を書いたり、細かい授業計画をつくるような人間ではない。非常に無精な人間である。そのような人こそ（そうでなくとも良いのだが）、この「英語日誌」をおすすめする。

最後に、実際私の生徒が書いた「英語日誌」の一つを資料としてのせておく。

4冊の英語日誌の中の、たくさんの日誌の中から、どれを選んだらよいか苦労したが、どれでもたいして変わらない。たいがい女子生徒の方がきれいな日誌を書いてくれるので、その中でも特にきれいで見やすいやつを選んだ。カラーでお見せできないのが残念である。日誌のレイアウトなどは、生徒がそれぞれ勝手に、しばしば独創的にやってくれるので、これは単なる一つの例として見ていただきたい。2年6組のライティングの「英語日誌」からである。ちなみにこの日誌に出てくるジェイクとは、私が時々授業に持って行って、腹話術をやるぬいぐるみの名前である。

(岩手県立釜石南高等学校教諭)

資料

No. \_\_\_\_\_  
DATE 10.12.5 4時

LESSON 3 May I Use the Phone? p52~p53A 6組 27番 小1段目 ②

授業のポイント・板書

◎ 許可・禁止の表し方

テレビをつけてしまいませんか。

Do you mind (if) I turn on the TV?

知=知 = my turning on the TV?  
動名詞 動詞句

～してもよろしいでしょうか (許可)

次回単語の  
テスト

答の文 ・ No, I don't. 気にしないよ → いいえです。  
・ Yes, I do. 気にするよ → ダメです。

電気製品は  
みんな同様である

- Turn on TV. テレビをつける
- Turn off TV. テレビを消す
- Turn up TV. 音量を上げる
- Turn down TV. 音量を下げる

- ★ Can't
- × Can not
- may not
- Cannot

- ★ permit (人) to ~ ← permit
- allow (人) to ~ ← allow
- (人) が ~ する許可を与える
- (例) She allows (me) to do it.
- I am allowed to do it.
- ↓ 許されている

アクセント  
注意!

permission  
◎ 許可

◎ 宿題  
英作文演習  
ノート P50~51  
(LESSON3)  
A, B, C, E

Jake may not like me.  
I never asked him.  
But he must be  
with me, like it or not

◎ 余談  
今日の英語R  
の時、ジェワの  
出る時間が長く、  
先生も間違っ  
てミツ入の声になっ  
ておもしろかった。あと、  
ジェワは先生のど  
好きなのかなあ。  
Do you like Mr.  
Yamaquchi◎?

◎ 感想  
今日の授業では直訳  
(ない)ものもあり、ややこしい  
気がした。たぶん、日本語を  
英語に書きなおせと言われ  
てもできない。英語は先生  
だとわかりやすいし、けっこう  
楽しいですよ。よしよし。  
I like an English class.  
But I don't like English.◎

